

設 立 趣 意 書

1.趣旨

<社会をデザインする>

ソーシャルデザインセンター淡路（SODA）は、その名が示すように「これからの社会をデザインする」ことを目標としています。

近年、気候変動や生物多様性の危機など、人類が直面している多くの課題を克服し、「持続可能な社会」をつくるためにさまざまな議論がなされています。このような中で、私たちは今一度原点に立ち返り、人が求める「本当の幸せ」とは何かを問い直すべきだと考えます。調査データを見ると、すでに30年も前から、日本人の価値観が「物の豊さ」から「心の豊さ」へと次第に変化してきています。これは、物質的な富や便利で快適な生活を得る過程で失った、“人との絆や自然との繋がり”といったものの大事さに、改めて気付いたということでしょう。これを再生するためには、私たちは生き方そのものを見直すことが必要となってきました。

こうした時代の中で、市民を主体としつつ、行政や事業者、専門家などさまざまな立場の人たちと語り合い、共に考え、行動し、私たちの社会の将来像を描くことが何より大切だと考えました。そして、みんなの夢を形にしていくまちづくりコーディネーターとしての役割を、ソーシャルデザインセンター淡路で担いたいと一念発起したのです。

<淡路島の課題>

さて、私たちが描く“幸せな社会像”を一言で表せば、「誰もが役割や仕事を持ち、みんなが笑顔で生き生きと暮らせること」です。それは、今のこの島にこそ求められている社会といえるでしょう。なぜなら、近年この島では、少子高齢化が急速に進み、高齢者の独り暮らしが増大しています。また児童虐待やひきこもり、自殺者の増加なども深刻です。この島では地域のコミュニティを大切にする人も多く、まだ健在であるように思われますが、残念ながら個人や家庭が、地域から「孤立」している姿が明らかになってきています。また、若者が希望するような仕事の場が少ないこと、あるいは都会の暮らしへのあこがれもあって、島外への流出が後を絶ちません。その結果、若年人口の減少や、社会のさまざまな場面での後継者不足が大きな問題となっています。

<SODAの目的>

私たちは、こうした課題を解決する手立として、まずは、それぞれの持ち味が生かせる「仕事づくり」だと考えました。それは、個々人の生活基盤を支えるために不可欠なことであり、またこの島の経済を強化する大切な鍵だと思うからです。

また、私たちが目指す「仕事づくり」は、市場経済におけるビジネスだけを指すのではなく、広くコミュニティビジネス（地域事業）やソーシャルビジネス（社会起業）なども含まれ、これらが一体となることで、多様な仕事の場を創出することができます。

そしてこれらの仕事によって、最終的にはこの地域に住むすべての人々が、それぞれの「役割

が見出せるような「社会」を描くことができるのです。さらには、各自ができる仕方で互いに助け合う活動もこれに含まれます。それは、互いの存在価値を理解してこそできる「社会」です。各自がそれぞれにふさわしい居場所を見出し、地域との緩やかで多様なつながりを持つことで、真の生きがいへとつながるのではないのでしょうか。

ソーシャルデザインセンター淡路は、こうした理念をもって、活動を安定的かつ継続的に展開するため特定非営利活動法人を取得します。皆さんとともに、本当の幸せを求めて明日の淡路を創っていきましょう。

2. 申請にいたるまでの経過

行政と市民が連携し、まちづくりを進めるため、平成 22 年 4 月「南あわじ市活性化委員会」が設立された。同委員会では、定期的に会議を開き、市民の意見やアイデアを市長や行政に提案してきた。さらに、提案意見やアイデアのプロジェクト化・事業化を支援するため、地域の有識者や専門家が集い、平成 23 年 3 月 1 日に「ソーシャルデザインセンター淡路」が設立された。

「ソーシャルデザインセンター淡路」では、活性委員会との連携強化、並びに、会員拡大を目的として、特定非営利活動法人の取得を目指すことになり、「ソーシャルデザインセンター淡路」発起人会における議論を経て、平成 23 年 7 月 17 日に、「ソーシャルデザインセンター淡路」設立総会を開催した。

平成 23 年 7 月 17 日

特定非営利活動法人 ソーシャルデザインセンター淡路

設立代表者

住所又は居所

兵庫県南あわじ市神代地頭方 1538 番地 1

氏 名 木田 薫 印